

# FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

会長：柳原寿男 副会長：鈴木廣利  
幹事：宮川邦光 副幹事：松葉隆夫



2004-2005年度  
RIテーマ

ロータリーを  
祝おう

100年の歩み

グレンE.エステス・シニア

CELEBRATE  
ROTARY



水鳥

[写真提供：青島 克郎君]

## 第1600回

<ソング> 奉仕の理想  
<ソングリーダー> 青島 克郎君

### 藤枝南クラブ合同例会

#### 会長挨拶 柳原 寿男君

11月はロータリー財団月間です。

本日は曾根真人ロータリー財団地区委員をお招きしての藤枝南クラブとの合同例会です。

「ロータリーの友」11月号に、カルロ・ラビッツアロータリー財団管理委員長のインタビューが掲載されております。この中でロータリー100周年の年度中の財団最優先事項として、

第一に、約20億人の子ども達にワクチンを投与してきたポリオ・プラス・プログラムの継続。

第二は毎年すべてのロータリアンが、年次プログラム基金に100ドル以上の寄付をするいわゆる「Every Rotarian, Every Year」を推進していくことであると言われております。

皆様はお金を出すことに抵抗を感じる時がありませんか。その金が何に使われたか判らない時又は、使われた結果がどうなったか知らされない時に、その寄付行為にいささかの抵抗を感じるようです。あたかも税金の行方のように！！無駄はなかったかどうかと。

100ドルの寄付でどのようなことが可能かと言うと、インドの150人以上の子ども達にポリオワクチンを投与することができるそうです。では1日50円のきょ出ではどうか。1日50円のキャンペーンをしている団体があります。私共の関係する医療援助団体「国境なき医師団(MSF)」です。1999年にノーベル平和賞を受賞しました。独立、中立、公平を守りながら医療援助を第

一に活動を続けている国際組織です。1971年にフランスで設立され、年間3,000人のボランティアが約80ヶ国で援助活動を行っています。

1日50円は黄熱病の予防ワクチン2本分または、医学的に調整された高カロリー栄養食の2食分に相当します。

ところで多くのロータリアンは、自分の寄付が素晴らしい成果を挙げているのを、自分の目で確かめる機会はありません。

「ロータリーの友」11月号の「失われた命、救われた命 タイ」の中に、我が2620地区静岡第2分区長泉RC会長の加藤精一氏(職業分類語学学校)がチェンマイのニューライフセンターを訪れ、ご自身の目で確かめられたと伝えております。(以下概略を記載)

タイ北部の最大都市チェンマイ、この街の南東に広がるチェンマイランドは真夜中近くに目覚めようとしている。タイの多くの女性にとって、性を取引する仕事は、職業選択の一つとなっている。家族を養い、学費をまかない、小さな商売を始める資金を貯めるための手段である。

タイ北部地方の山岳民族(少数民族)の出身者は、何百年もの間、自給自足の農業を営み、貨幣経済とは無縁な生活をしてきた。しかし時代の流れと共に、伝統的な生活とかけ離れた事柄が増えてきたのである。多くの人は自分達の民族言語しか話せず、従って教育を受けたり、職を得る可能性が閉ざされていた。タイ国籍取得のために必要

な複雑な役所の手続きもできない。タイ国籍のIDカードが無いと旅行も制限され、教育や雇用の機会は更に難しくなる。市民権がないことが人身売買そして売春へ、また奴隷同様の家政婦や工場労働者を生むことになった。

ニューライフセンターはチェンマイに本部を置き、性を取引する仕事に関する問題にかかわってきた非政府組織です。17年間活動してきました。このニューライフセンターにロータリーから最初の援助があったのは1999年、第2620地区の識字率向上および手工芸プログラムでの4,000ドルでした。翌年に長泉RCの加藤精一氏が地区国際奉仕委員会委員になった時、このプロジェクトの拡大を図るため、ロータリー財団にマッチンググラントの申請をしました。加藤氏がチェンマイRCに補助金の共同スポンサーの提案をし、チェンマイRCはためらうことなく引き受けたのです。

2004年ロータリー財団は2万1000ドルの寄付の半額をニューライフセンターの補助金として拠出することを承認し、2004年7月、加藤氏がセンターを訪問したのです。その目で確かめるつもりで、「その成果は私が期待していた以上のものでした」と語っています。(尚、詳細はロータリーの友、11月号をご覧ください)

本日、秣のクラブは1600回目の記念すべき例会を迎えております。そして会員の宮崎啓之進先生には、1600回皆出席の快挙を成遂げられました。まことにおめでとうございます。先生にはこれからも健康に留意され、クラブの発展のためにお力を添えていただければと願っております。

### 1600回例会皆出席表彰



宮崎 啓之進さん

### 出席報告

松葉 隆夫君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
31 / 41 75.61%	29 / 41 70.73%

(1)欠席者(事前連絡とメーカーキャップをどうぞ)

飯塚君 後藤君 鈴木晶君 増田君

渡辺君 浅川君 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君

望月志君

(2)メーカーキャップ者

水野 義猛君(藤枝南)

### スマイルBOX

•ようこそいらっしゃいました。本日は宜しくお願  
い致します。 ロータリー財団 村松委員長

•11月26日、女房の誕生日です。村松 英昭君

スマイル累計額 477,300円

### ロータリー財団委員会

地区委員 曾根真人様



11月はロータリー財団月間です。この月間にロータリー財団の活動と、それを支える寄付についてお話しさせて頂く機会

を与えていただき感謝申し上げます。

ロータリー財団(以降R財団)はご承知の通り、RI発足後20年以上後に組織され、現在ではRIとは別組織として米国イリノイ州で非営利財団法人化されています。しかし、その目的・使命は両者共に一体のものです。

R財団は教育的プログラム、人道的プログラムそしてポリオプラス・プログラムの3種類の活動を行っています。

教育的Pの主なものは、国際親善奨学金と研究グループ交換(GSE)で、人道的Pは地区補助金やマッチング・グラント等があります。

藤枝RCのR財団活動への参画を調べてみますと、これまでに7人の国際親善奨学生を送り出し

ています。皆さんご存知でしたでしょうか。奨学生一人を1年間留学させるためには、\$25,000がR財団から支払われます。ですから、これまでに\$175,000を財団活動として有効にご利用いただいているわけです。

これらの資金はすべて皆様の寄付で賄われています。細かな説明になりますが、毎年皆様一人に\$120の寄付をお願いしていますが、これは年次寄付と言われ、3年間は使われずに資金運用され、その運用収益で、活動のために費用が賄われます。

3年後、年次寄付は40%が国際財団活動資金(WF)として、60%が地区財団活動資金(DDF)として配分され、このDDFで国際親善奨学金が支払われています。つまり、\$175,000のDDFを確保するには\$291,666の年次寄付が必要になるわけです。

では次に、その活動を支える寄付について見てみましょう。昨年度の年次寄付はクラブ全体で\$5,298ありました。これはお一人当たり\$126.14で地区目標をクリアされています。クラブ創立からの累計は\$195,070になっています。単純に収支から言えば、活動先行型になっています。尤も、地区全体をプールして考えれば良い事で、活発な財団資金活用は決して悪いことではありません。

しかし、R財団活動への参画と、これを支える寄付への協力は車の両輪に例えられるように、両者がバランスよく回転してこそ、R財団は順調に前進します。更なるご協力を期待致しております。

R財団の資金はこれまでは国際的なプロジェクトにしか使えませんでした。R財団の使命が変更になり、地域的なプロジェクトにも活用が認められるようになり、昨年度から「地区補助金」がスタートしました。利用が額には限度があり、当地区は3万ドルをこれに確保してあります。

地区補助金は皆様の身近な活動へ資金が提供されますので、大いにご活用ください。本年度も18件のプロジェクトに40万円を限度に補助をし

ています。いくつかの条件がありますが、大変利用しやすい制度です。

R財団への寄付の増進に関してポールハリス・フェローやベネファクターなどの制度があります。これらをうまく利用し、一つの励みとして楽しみながら寄付の積み上げをされますことをお勧めいたします。



(担当/池ノ谷)